

2023年11月1日

第2回 JTTRI グローバルセミナー
「次の半世紀における日 ASEAN 関係
～日 ASEAN 友好協力 50 周年の節目に～」
開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所（JTTRI）会長の宿利正史です。

今日は本当に多くの皆様がオンラインで視聴され、また会場にもお越しいただいております。海外からも、多くの方にご参加いただいております。ありがとうございます。

今ご紹介がありましたように、今回はこれからの日本と ASEAN の 50 年をどう考えるかという非常に大きなテーマです。文字通り大きなテーマに相応しい御三方にご協力をいただき、本日のセミナーを開催することができることを、私も大変嬉しく思いますし、三人の登壇者の皆様に心から感謝申し上げたいと思います。

皆様にこの後ご紹介申し上げますが、先週の月曜日、10月23日に、運輸総合研究所の ASEAN インド地域事務所が中心になりまして、ベトナムのハノイにおきまして、日越外交樹立 50 周年の記念シンポジウムを開催いたしました。これは日本とベトナムで、今後力を合わせて持続可能な観光を実現していこうという趣旨でしたが、日本とベトナム、あるいは日本と ASEAN の間の人と人との交流を、もっと重層的に、広範に拡大していこうという、そうした流れの一環として観光を取り上げた訳です。現地でも大きな反響があり、今後継続的に共同研究していこうということで、当研究所とベトナム

の研究機関の間で MOU を結ぶことになりました。

同じように、今年の2月にバンコクで、タイの観光スポーツ省と一緒に開催しました観光シンポジウムでも、やはり非常に高い関心が示されまして、年内に先方と MOU を結んで、合同の委員会を作って、継続的に日本の関係者とタイの関係者との間で勉強していこうということになっております。

ASEAN の二つの国の例を申し上げましたが、やはり日本との間で観光交流や人的な交流をもっと充実させたい、あるいは物流や交通インフラなども同じでありますけども、日本と一緒に力を合わせながら先に進んでいきたいということに対して、ASEAN 諸国には強いニーズがあるということを実感しております。

今年の年末には、ベトナムの交通運輸省と一緒に、持続可能で質の高い交通インフラとして、鉄道と空港と港湾についてセミナーを開催する予定です。以上、最近の当研究所の動きと ASEAN との関係をご紹介申し上げます。

本日のテーマであります ASEAN の重要性、あるいは日本と ASEAN の関係の深さというのは、私がいちいちご説明するまでもなく、今日ご視聴いただいている皆様はそれぞれのお立場で十分ご承知かと思えます。この後お話をいただきますお三方は、その分野における代表格の皆様です。

まずビラハリさんからご紹介したいと思えます。ビラハリさんを

2023年11月1日

ご存知の方は沢山おられると思います。日本の新聞にも折々に重要な寄稿をしておられますが、シンガポールの外務次官を数年前に退官されまして、現在シンガポール国立大学の独立の研究機関であります中東問題研究所にいらっしゃいます。今はシンガポールの元外交官という立場を遥かに超えて、国際政治や外交、あるいは広く国際関係について ASEAN を代表する論客としてご活躍されています。

私は既に8年前位からでしょうか、ビラハリさんに大変お世話になっております。私は国際高速鉄道協会という団体の代表理事を務めておりますが、この団体の関係で、マレーシア・シンガポールに何度も出かけていた時期がございました。宮川さんがマレーシア大使でおられたときですが、その折にシンガポールのビラハリさんの事務所をお訪ねして、ASEAN の状況、あるいは ASEAN と日本との今後の関係などについて、折々に色々な重要なお話を聞かせていただきました。

つい先日も東京にビラハリさんがお見えになったときに、いつものことではありますが、ASEAN の話からさまざまなグローバルな大きなテーマにまで話が及びました。今日もそういうことになるかもしれませんが、テーマは日本と ASEAN の今後のことだということで、ビラハリさんのお話を皆さんも楽しみにしていただけだと思います。

また、鶴岡さんも皆様よくご存知の方ですが、鶴岡さんにも当研究所は大変お世話になっております。鶴岡さんは外務省の要職を歴任しておられまして、国際法局長、総合外交政策局長、外務審議官、

2023年11月1日

TPP 交渉の日本政府代表、駐英国特命全権大使などを歴任してこられました。インドネシアにも公使として勤務されておられますので、ASEAN の状況についても大変よくご存知です。

当研究所は、鶴岡さんが退官して間もないときから研究アドバイザーとして、また理事として大変お世話になっております。当研究所は、職員の国際的な経験や知見を高め、質の高い国際的な活動ができるように、1人1人がそういう研究員になるように、教育を重視しておりますが、鶴岡さんにはこれまで26回に亘り2時間ずつのレクチャーを続けていただいております。国連の成立の背景や国連の課題など、国際的な活動をする上で必要な諸々の外交上の知識、あるいは歴史から得られる教訓などを教えていただいております。本当にありがたく思っております。

それから本日のモデレーターですが、実際には鼎談のようになるかもしれませんが、宮川さんをお願いいたしました。宮川さんも、ご承知の方は沢山おられると思いますけれども、直前は駐マレーシア特命全権大使を5年以上に亘りお勤めになられまして、その後国家安全保障局の参与もしておられました。その前は、中東アフリカ局長や在ジュネーブ日本代表部の大使など、鶴岡さんと同じく要職を歴任しておられます。

現在は評議員として、当研究所の活動についてご指導いただいております。私自身は、宮川さんが外務省に入られる前に3年ほど運輸省にお勤めでしたので、そのときから大変親しくさせていただいております。

2023年11月1日

このような旧知の皆様と申しますか、普段大変お世話になっている皆様に、日本と ASEAN の関係をテーマに語っていただくのが一番良いセミナーになるということを私は確信しまして、今回登壇をお願いした次第であります。

私自身も、かつて 1984 年から 3 年間、在インドネシア日本国大使館に勤務しておりました。既にもう 40 年近くも前の話ですが、あの当時は ASEAN の加盟国は 5 カ国のみでした。その後間もなくブルネイが参加しましたが、インドネシアでの 3 年間の在外経験を経てそれ以降私は ASEAN の側から日本を見るということを意識してきました。そういう延長線上で、当研究所として ASEAN やインドを中心とした南アジアにおける活動に力を入れるべきだと考えて、AIRO を 2 年半前に作ることにしました。今後更にその活動を充実していくことが、日本、ASEAN 双方のためになり、また、日本が ASEAN 諸国に対していろいろな協力や貢献ができるのではないかと、そのように考えて取り組んでおります。

さて余計なことをお話ししている時間ありませんので、本題である今日のセミナーに移っていきたいと思います。ではビラハリさんからでしょうか。よろしく願いいたします。本日は皆様ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。